

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320112

研究課題名（和文） 日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究

研究課題名（英文） The overall research on fishery, fishermen, and fishing village in Japan

研究代表者

岩田 みゆき (IWATA MIYUKI)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：40365010

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：漁業・漁民・漁村・海村・日本史・民俗・水産・民具

### 1. 研究計画の概要

本研究は、歴史学・民俗学・民具学・水産学の研究分野を異にする研究者が共同し、漁業・漁民・漁村の総合的研究を行い、日本人の伝統文化の特質を海からの視座から解明するものである。具体的には[1]漁民の生業・生活の場である漁村構造の実態とその変化、[2]漁業をとりまく海底環境や海流の変化を含む自然環境・社会環境の実態とその変化、[3]それらに応じた漁具・漁法・漁業組織などの漁業の実態と変化、[4]漁業経営と漁業生産の実態と変化、[5]漁民の生活・文化の実態と変化という五つの課題を設定し、これらの課題に(1)研究分野を超えた共同研究(2)地域を異にする各地域間の共同研究(3)経験を異にする世代間の研究の共同 という研究スタイルをとりつつ各研究者がとりこんでいく。本研究は以上の研究目的を達成するために、平成18年度から21年度にかけて、合同研究会の開催、地域調査の実施を行い、日本の海付き集落の実態を歴史学・民俗学・民具学・水産学の諸側面から明らかにしていく。

### 2. 研究の進捗状況

(1)合同研究会 2006年度に2回、2007年度に2回、2008年度に3回実施した。2006年度の研究会では、第1回目に分担者・協力者からそれぞれの問題意識を出し合い、すり合わせを行った。またこの会で、研究対象地域として、黒潮の流れに沿う太平洋沿岸地域、中でも伊勢湾周辺と、西伊豆を中心とする駿河湾沿岸漁村の二箇所にひとまず焦点をし

ぼり、それぞれ水産・歴史・民俗・民具学の立場から調査を行い、また地域間の比較研究を行う方向性を確認しあった。第2回研究会では、知多市歴史民俗博物館学芸員石川氏を招き、研究会を実施した。2007年度には第1回に昨年度の調査報告と、今年度の調査地について話し合った。第2回は、成城大学小島孝夫氏の神島をめぐる離島調査報告、および分担者各自の中間報告を行った。2008年度は、第1回は田邊悟氏が三重県尾鷲市須賀利浦の歴史と民俗に関する調査報告、第2回谷沢明氏が知多半島における漁業集落の形成過程に関する調査報告、第3回松浦勉氏が沖底(2そうびき)の経営構造についての報告をした。これらの報告内容は、2008年度作成した中間報告書に反映されている。

(2)地域調査 2006年度には、最初の話し合いに従って、知多半島から伊勢湾側の沿岸漁村・伊勢湾の島嶼と、駿河湾沿岸の焼津から西伊豆の二地域を大きく設定し、各分担者・協力者がそれぞれ分担して調査を行った。伊勢湾沿岸では、南知多町郷土資料館・知多市立博物館所蔵の古文書及び民具調査、漁村の景観調査、日間賀嶋・神島などの集落構造の調査および漁具・漁法の調査、尾鷲市須賀利浦における漁具漁法の聞き取り調査などを実施した。西伊豆では、焼津市、沼津市戸田、西伊豆町田子の古文書調査、漁村景観調査、漁民の聞き取り調査を実施した。2007年度は、伊勢湾周辺では、神島・答志嶋などの離島調査と、志摩半島の漁村調査に焦点を絞り、現地での聞き取り調査及び鳥羽市海の博物

館が所蔵する古文書調査を重点的に実施した。駿河湾周辺では、西伊豆町の史料調査と、焼津市の史料調査を重点的に実施した。あわせて、国文学研究資料館・徳川林政史研究所などにおいて関連史資料を調査・収集した。2008年度は、知多半島・伊勢湾沿岸では、南知多町の古文書調査と聞き取り調査、鳥羽市神島の歴史・民俗・水産の総合調査を開始した。西伊豆調査では松崎町の古文書の調査を実施した。これらの史料調査によって、新たに発見された史料もあり今後の研究に期待が持てる。さらに、地域間の比較研究のため鹿児島県・山口県などの歴史・民俗の予備調査を開始した。

(3)中間報告書の作成 平成18・19年度の中間報告書を作成し、後半の研究活動に備え、来年のまとめにむけての準備を行った。

### 3. 現在までの達成度

本研究は、これまで実施してきた合同研究会や、数多くの史料調査、中間報告書の作成によって、当初の計画以上の成果をあげている。理由は以下のとおりである。

(1)合同研究会では、歴史学・民俗学・民具学・水産学の異なった分野の専門家による合同研究会を実施し、それぞれの専門分野の特質を尊重しつつ本研究目的を達成するための共通理解を深めつつある。それは地域調査を通じても実現しつつある。

(2)地域調査の成果については、2006年度・2007年度・2008年度に実施した史料調査によって、当初の計画で決めた二つの地域、すなわち志摩半島から知多半島の伊勢湾周辺の漁村及び周辺の離島調査、伊豆半島の西側から駿河湾に面した漁村の史料調査によって、それぞれの地域における史資料の存在状況を明かにし、また古文書調査・聞き取り調査・景観調査などを通して、設定した五つの課題に沿って漁業・漁民・漁村の実態を歴史的に明かにしつつある。その成果の一部は、既に2008年度に中間報告書としてまとめている。また、地域調査では、異なった分野の専門家が合同で同じ地域の史料調査を実施するなど、従来あまり試みられていない合同調査を実施しており、その点でも大きな成果が期待できる。以上の諸点から、本研究は当初の計画以上に進展している。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1)合同研究会の実施。合同研究会は、従来どおり調査・研究の発表の場として継続していくが、2009年度の合同研究会は公開研究会とし、参加者を増やしつつ充実させていく。(2)地域調査では、伊勢湾・駿河湾周辺漁村の補充調査を実施するとともに地域間の比較

研究として日本海側や瀬戸内海、東北地方や九州方面などの漁村も視野に入れて史料調査を実施し、五つの課題に沿ってまとめる。

### 5. 代表的な研究成果(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

谷沢明 知多半島における漁業集落の形成過程に関する考察-事例研究:愛知県南知多町- (「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 P17~P72 2009 査読無)

北村優季 鳥羽市神島の集落とその形成 (「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 p73-p88 2009 査読無)

高橋美貴 「近世漁業を通して見た生業と魚介類」(中澤克昭編『人と動物の日本史 2 歴史のなかの動物たち』吉川弘文館 p164-p187 2008 査読無)

池田哲夫 海の資源管理と漁村の持続性 (ムラの資源を研究する p74-p84 2007)

池田哲夫 内橋潔と漁村実態調査(高志路, No. pp.(2008) 369号 p15-p64 2008 査読有)

田邊悟 三重県尾鷲市須賀利町 須賀利浦の歴史と民俗-生産構造の二重的性格を中心に- (「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 p1-p16 2009 査読無)

松浦勉 静岡県西伊豆町田子地区におけるかつお一本釣漁業の展開とかつお節製造業者の存立条件 (「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 p89-p100 2009 査読無)

岩田みゆき 豆州西浦村平沢の漁業生産について-近世から近代へ(「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 p101-p138 2009 査読無)

岩田みゆき 近世海村における商業活動の一形態 豆州西浦久料村の場合 (青山史学 26 p109-p137 2008 査読無)

山口徹 海に如何に学ぶか(「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」平成18年度・19年度中間報告書 139-141 2009 査読無)

[学会発表](計0件)

[図書](計2件)

高橋美貴 「資源繁殖の時代」と日本の漁業 山川出版社 p101 2007

松浦勉 沖底(2 そうびき)の経営構造-日本型底びき網漁法の変遷 北斗書房 p157 2009 [産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]